

東京大学大学院 工学系研究科 都市工学専攻 社会人のための修士課程 | 都市持続再生学コース Master's Program in Sustainable Urban Regeneration

mps news No.20



開講式:第18期生19名が入学



第18期生歓迎会の様子

2024年9月30日、記念すべき第18期生のための開講式およびガイダンスが執り行われました。今年は入試に合格した19名の新入生がまち大に加わりました。都市工学専攻・まちづくり大学院、社会基盤専攻、および建築学専攻を代表する教員からの祝辞をご紹介します。

お祝いのことば

入学おめでとうございます。厳しい選考を経てこの場に集まられた皆さんを心より歓迎いたします。これから、私だけでなく多くの教員や関係者がみなさんの学びと研究を全力で支えてまいります。

本コースは、非常に充実したコースワークを特徴としています。特に最初の1年間は課題や演習が多く、大変な時期となるでしょう。しかし、この厳しいカリキュラムを乗り越えることで、皆さんは確かな実力と自信を身につけることができるはずです。

まちづくり大学院は、都市持続再生に関する学術研究拠点をつくるという大型研究プロジェクトの成果に基づいて、社会人を対象とした実践的なプログラムとして設立されました。この研究プロジェクトは社会基盤学、建築学、都市工学専攻の三専攻で実施してきたため、まちづくり大学院では、都市計画やまちづくり、社会基盤、建築を幅広く学べる環境が整っています。

また、大学の教員に加え、民間企業や行政など実務の第一線で活躍する専門家の講義が受けられることも本コースの特徴です。それが可能になるのは、建設、不動産、鉄道、金融など、多様な分野の企業からの寄付に基づく都市持続再生寄付講座が設置されているためです。こうした産官学連携のもと、理論だけでなく現場感覚も学べる貴重な機会となるでしょう。

加えて、このコースでは先輩や教員、外部講師とのネットワーク形成が非常に重視されています。修了生はすでに 200人を超え、縦横に広がる社会的なネットワークはみなさんの今後のキャリアに大きな資産となるはずです。 将来 みなさん自身がネットワークのハブになるような役割を期待したいと思います。

まちづくりや都市再生の専門家に求められる資質は多くありますが、「チームをつくる力」が最も重要な資質だと思います。住民の声に耳を傾け、多様な立場の人と協力し、対話を重ねながら合意形成を図る力がなければ、実践の場で活躍することはできません。どうかこの大学院生活を通じ、専門知

力かなければ、実践の場で活躍することはできません。とうかこの大学院生活を通じ、専門 識だけでなく、人間関係を築き、信頼されるリーダーとしての力も養ってください。

最後に、みなさんにはぜひ多くの経験を積み、都市や地域の未来を担う専門家として成長されることを期待しています。初心を忘れず、学びの機会を最大限に活かし、まちづくり大学院を支えるような人材になっていただきたいと思います。



都市工学専攻・まちづくり大学院 小泉 秀樹 教授 (コース長)





社会基盤学専攻 堀田 昌英 教授 (専攻長)

入学おめでとうございます。みなさんはまちづくりの実務の経験に基づく関心領域や問題意識を強く 持っているかと思います。まちづくり大学院における講義演習や研究に関して、みなさんの視点を寄せ合い、議論を交わし、教員とも互いに刺激を与え合うことが非常に重要になります。

また、みなさんにとっては日頃忙しい中でなかなかすぐには分からない、解決できないような大きな課題にじっくりと腰を据えて取り組める機会となることと思います。大きな問題には現場の詳細な事実に関する理解に加えて、分析的俯瞰的な視点や手法も必要だと思います。まさにまちづくり大学院ではこの両者をつなげる議論を日々行うことになるのだろうと思います。

私たちも精一杯お手伝いさせていただきたいと思っております。みなさんにとって、自身の問題に取り組むための有意義な時間となるよう願ってます。



建築学専攻 山田 哲 教授 (専攻長)

入学おめでとうございます。まちと言うと当然、人が生活し、そして社会経済活動も含めて様々な活動を しています。生活文化の様々な基盤がまちに全部あるということです。

みなさんがこれまでに積まれてきた様々な経験と、まちづくり大学院の中で専門の経験・知識を持つ 先生方から講義・演習を通じて得る新たな知識や他の人の経験を融合して、ぜひ大きな知識と豊かな 経験を熟成する機会にしていただきたいと思います。

将来のいいまちづくりや人々の生活のいい拠点づくりをサポートするような仕事に役立てていただくための経験を積んでいただければと思います。







■開講式の様子



2024年度秋季学位授与式・よいまち会

17年間で修了生が235名に



2024年9月20日、東京大学秋季学位授与式及び学位記伝達式が行われました。2024年9月修了は、10期生1名、11期 生1名、13期生1名、14期生5名、15期生1名、16期生4名の計13名が修了しました。2024年3月修了の12期生3名、13期生2 名、15期生2名を合わせると20名となり、これまでの修了者は計235名となりました。

20名の修了生の論文題目は以下のとおりです。国内外における持続可能な都市地域づくり・まちづくりに関する、多 種多様な修士論文が揃いました。学位授与式終了後は、16期生主催による謝恩会(よいまち会)が対面で開催されまし た。寄付企業の皆様にも多数ご参加頂き、交流を深めました。



謝恩会(よいまち会)での集い

【2024年3月修了】

まちづくり大学院生の修士論文

- ・官民連携を前提とした地域課題の解決・改善における地方銀行の新しい機能に関する研究
- ・ハイブリッドワークの進展に伴うスタートアップ企業の立地特性に関する研究 一コロナ禍における東京都心5区での立地及び集積要因の変化-
- ・中心市街地活性化政策における居住人口を指標とした評価の実態と課題
- ・個別避難計画策定における自治体の支援体制の実態の実態に関する研究 -総務省調査結果の二次分析と現場でのヒアリング調査から-
- ・地方自治体のワーケーション政策実態と地域への影響に関する研究 観光型ワーケーションと地方創生型ワーケーションの対比から-
- ・生育環境と空間認知の関係 一仮想空間におけるナビゲーションテストによる検証―
- ・基礎自治体スマートシティ事業におけるインフラ向けIoTセンサー器導入の現状と促進のための課題と考察

【2024年9月修了】

- ・特定の政策課題における過剰な財政調整が自治体の社会資本整備の財源にもたらす影響 -新型コロナウィルス感染症対応地方創生臨時交付金とふるさと納税のケーススタディ-
- ・地域包括ケアシステムの構築に向けた多職種連携システムの活用実態に関する研究 -看護職と介護職のコミュニケーションを対象に
- ・地域運営協議会の法人化がもたらす成果と課題
- ・地方自治体による水素政策を通じた環境面及び経済面の向上に関する研究 —SDGs 未来都市の事例分析を通じて—
- ・公共交通への近接性から見たシェアモビリティのステーション配置の現状に関する研究 -欧米のモビリティハブからの示唆を踏まえて-
- ・環境過敏症患者の住まい確保の現状と民間賃貸住宅への受入れ可能性 -室内空気質に配慮した『オーガニックアパート』について-
- ・寄席は蔓延る 寄席の形態的多様化の研究 ―高度成長期以降の東京都を対象として―
- ・バーチャル上のまちづくりがリアルのまちの活性化に寄与する要素に関する研究
- ・住宅地下の容積率不算入制度がまちに与える影響の分析 一世田谷区の事例に着目して―
- ・都市再生安全確保計画に対する民間企業等の意識に関する調査研究
- ・地域材を利用した木質バイオマス発電における川上・川中・川下の担い手の連携
- ・都市再生緊急整備地域の指定及びプロジェクトの実態と課題に関する研究



・地域課題解決を志向するリビングラボによる持続的成果創出に向けた実践

まちづくり大学院に入学して――志望動機と入学後の感想

2024年度入学の第18期のみなさんに、志望の動機や今後の抱負などを思い思いに語っていただきました。

■吉田弘―不動産鑑定業

不動産鑑定士として鑑定会社で評価業務やコンサル業務に 取り組むなかで、個別の不動産の経済価値のみに自身の視点が 固定されてしまい、都市計画やまちづくり、持続可能な地域づくり といった広い視野が欠けていることに違和感を覚え、新たな視点 や考え方を身につけたく、まちづくり大学院を志望しました。

入学後は、新たな知識や考え方、先生方の実務上の経験談など多様な情報を日々の授業で学ぶことができ、とても楽しく刺激的な毎日を過ごしています。また、幅広いバックグラウンドや経験、専門性を持つ同期の皆さまとの交流を通じて、新たな気づきや知見を得ることも多く、大変充実した学生生活を過ごしています。

大学院と仕事との両立は大変な面もありますが、大学院での 学びを実務でも活かせるよう、これからも精進していきたいと思い ます。

■満山堅太郎─建築設計事務所・コンサルタント

私は2年前ほどまで公務員として、建築行政や都市政策、公共 交通行政などに従事していました。現在はその経験を活かして起 業し、建設会社をはじめとするまちづくりに関わる企業への支援を 行っています。

本学を志望した理由は、都市を取り巻くさまざまな課題に対して日々研究を進めている先生方や、第一線で活躍されている講師の方々から直接指導等を受けることで、これまでの経験から得た都市計画やまちづくりに対する考え方を発展させられると考えたためです。また、本学での学びを通じて、都市づくりの課題に対する新たな視点や発想、手法を得たいと考えています。

入学後、さまざまな分野で活躍する社会人の方々とのチーム演習を通じて多くの刺激を受けており、大変学びになっています。 今後も引き続き演習などを通してより解像度の高い理解と新たな視点等を身につけ、まちづくりの現場で貢献していきたいと考えています。

■辻下美智子─公務員

私は現在、総務省から高松市役所に出向し、市民一人一人が 創造的に暮らし、働き、活動できる"創造都市"の実現を目指し、主 に文化芸術振興に関する仕事をしています。

私は、「まち」は、人と人、人と社会がつながる場所であり、その過程においてこそ、人は自分の存在価値を確かにし、前向きに生きるエネルギーを得ることができると思っています。また、一人一人が当事者意識の範囲を一歩ずつ広げて他者や社会に能動的に関わることで、社会全体が良くなると考えています。

まちづくり大学院においては、まちづくりに関して、非常に幅広い 視点から学びを深められることを本当に嬉しく感じています。決して 受け身になるのではなく、自ら問いを立て、主体的に学ぶことを意 識し、その中で、持続可能で、心豊かに過ごせるまちづくりに向けた 政策を、総合的な視点で立案する力を磨いていきたいと思いま す。



■A.S. —地方公務員

大学では主に建築史を研究しており、まちづくりについて専門的に学ぶ機会はありませんでした。現在は臨海部のまちづくりに携わっていますが、日々の業務を通じてまちづくりや都市計画、都市デザインに対する自分自身の理解や知識がまだ十分にないことを痛感し、この分野でさらに学ぶべくまち大を志望しました。

入学後は、まちづくりを専門とする先生方の講義を受けることができ、日々多くの刺激を得ています。また、実習などで様々な立場の方々と意見交換することで、新たな知見を得るとともに、これまでの自分の仕事を振り返る貴重な機会にもなっています。

少子高齢化などにより、これまでのまちづくりのあり方を見 直すべき時期に来ていると思いますが、まち大で身につける知 識や経験を活かして、職場や自分のキャリアに還元していきた いと考えています。

■中田洋─再開発コンサルタント

これまで組織設計事務所に勤務し、建築物の意匠設計や市 街地再開発事業のコンサルタント業務に携わってきました。経験 してきた業務を通じて、まちづくりに関心を持ち、同時に今の自分 にできることの限界を感じていました。このような現状をどう変えら れるかを模索しながら、自身に経験のない学術的な視点や専門 知を養って、更なる実務知の向上を図りながら、将来のまちづくり のあり方を提案し、真に価値ある社会の実現に貢献していくため の準備としてまちづくり大学院で学ぶことを選択しました。

まちづくりについて考えることは、この国の将来を考え、後世を 想うことと同義であると考えています。今後想定される人口構造 や社会情勢の変化を的確に捉え、持続可能な都市づくりを実現 させる社会的責任を全うしていきたいと考えています。

■太田耕介─独立行政法人都市再生機構

東大まちづくり大学院へは「新しいまちづくりの模索と挑戦」をテーマに入学した。経済性に限らない都市開発を志しUR都市機構へ入社して早4年半の月日が経過し、この間に首都圏における市街地開発事業の組成業務や福島県浜通り地域における震災復興支援業務を通じて、公的組織からのまちづくりにやりがいを覚えた。一方で、複雑な社会課題(人口減少/気候変動/災害激甚化など)を眼前に、その課題と実務の間には大きなギャップを感じ、強い焦燥を抱く。競争から共創へ、消費から循環へ、経済と環境の両立へ。時代の転換期にまちづくりという仕事が持つ価値を、まち大のなかで模索し見つけたい。私にとってまち大での学びは挑戦なのである。







■S.A.—コンサルティング

コンサルティング会社にて、不動産ビジネスや民間企業による社会インフラの点検事業などの支援を行ってきました。幅広いテーマに触れることができる環境である一方、収益化が見込めない事業は検討の対象になりにくいことや、プロジェクトサイクルが短くそれぞれのテーマの深堀が難しいことに問題意識を持ち、腰を据えてまちづくりに漬かるべくまち大に入学しました。

大学院の講義では、知識のインプットだけではなく、制度や取組の背景についてその「中の人」からお話を伺えることがとても興味深いと感じています。また学友のみなさんも業界の専門家であり、講義や演習でのディスカッションを通じて、様々なステークホルダーの考え方に触れられることも新鮮でありまた勉強になっています。

仕事と大学院の両輪は非常にハードですが、楽しみながら走り 抜けたいと思います。

■山本貴子─建設コンサルタント

高校生の頃に建設技術者を志し、それからずっと、一心一意に、都市やまち、その中にある人々の暮らしのことを考えてきましたが、社会人生活も折り返し地点に差し掛かり、改めて、都市やまちづくりについて学び直すとともに、研究を通じて、これまでのことを振り返り、これから先どのように社会に貢献するかを考えたいと思い、大学院に入学しました。

入学して2カ月が経ち、仕事と学業の両立に苦労しているものの、都市やまちづくりにかかる幅広い分野の講義、実践的に都市やまちのあり方について考える演習等を通じて、仕事とは違う視点で、改めて都市やまちと向き合う機会が得られ、とても充実した学生生活を過ごしています。なにより、様々な専門性を有する先生方や、業界も志望動機も異なる同期等と議論する時間は、大変刺激的で、かけがえのない経験となっています。これから先の講義や研究も、とても楽しみです。

■稲田有美─経営コンサルタント

大学卒業後、外資系コンサルティング会社、国連、投資銀行、広告会社を経て、現在は経営コンサルティングの仕事をしています。官公庁や地方自治体、民間企業の方々と事業開発、ブランディング、マーケティング戦略策定の仕事を多く行ってきました。その中で地域やまちの高付加価値化のプロジェクトに携わる機会があり、地域の課題を解決しながら、日本の競争力強化や産業創出、ソーシャルキャピタルの向上につながるようなまちづくりをしたい、そのために体系的な学びを得たいと考えるようになり、本学を志望しました。入学後は、都市開発や建築等の領域で既に専門知識を持ち、実務で活躍している同級生の知見や洞察力に驚き、授業や演習で毎回刺激を受けながら、日々新鮮な気持ちで学んでいます。このような新しい挑戦ができることを大変嬉しく思っています。

■草野佑─建築設計事務所

建築意匠設計を専門に学び、設計事務所にて10年ほど勤めてきました。現在は都内や地方都市にて個人で設計を行っています。建物単体だけでなく地域全体を考えるプロジェクトや都市的なリサーチから関わることも多く、小さな建築でも公共性を有する、まちとかかわりを持つ建築を目指しています。建築家の職能が多様化する中、改めてまちづくりや都市計画の分野を体系的に学びたいと考え、まちづくり大学院を志願しました。

日々の講義では、第一線で活躍されている先生方と同期の 皆様との議論の時間が何よりも自身の糧になっていると感じ ています。様々な専門領域の言葉や概念、自分とは異なる多様 な視点も新鮮に感じます。専門分野にとらわれることなく柔軟 な姿勢で自身の研究と実践に取り組みたいと思います。

■石塚正浩—地方公務員

地方公共団体で都市防災や土地利用計画、住宅行政などに 従事しています。大学では伝統的建造物群保存地区・木密の防 災や木造防火技術などを研究していました。

業務で都市づくりに関わるうち、建築学的視点とは異なるものを都市計画に感じ、都市計画について体系的に学びたい、都市計画の手法で論文を書けるようになりたいと思い、入学を志望しました。

授業を受け、これまで関わってきた研究や業務が都市計画の学問領域においてどのような位置付けなのか、どのような経緯の中にあるのか等わかり、考えられるのがとても面白いです。また、色んな分野の同期の方から聴ける話がとても刺激になっています。これからしっかり都市計画について学びつつ、研究を進めていきたいと思います。

■内藤結子─地方公務員

私は「公園づくりがしたい」とう思いから東京で造園職の公務員となり、公園や道路の日常管理業務をしていました。街路樹の剪定や遊具の改修など、設計図が形になることを楽しみ、魅力に感じていました。

気が付けば10年前、まちづくりの部署に異動となり、再開発の意味も知らなかったところからのスタートでした。事業を経験する中で、都市計画やまちづくりをわかったような気がしていましたが、自分自身が一部の側面しか知らないことを身をもって痛感し、経済や社会学、法の歴史・背景、世界の都市など、様々なことを学ぶことができるまち大で勉強したいと考え、入学しました。

まち大では実務とは違う楽しさを噛みしめながら、先生方や同期 のみなさんの言葉から大変多くのことを学ばせていただいておりま す。今では、まちづくりは自分自身のライフワークだと思うほどに、その 魅力にはまっています。



■林晨怡—建築設計事務所

大学・大学院で建築を専攻し、現在は建築設計事務所の都市部門で主に都市デザインや都市計画構想の提案に従事しています。日々の業務を通じて実務的な視点から経験を積んできましたが、改めて体系的かつ専門的な知識を深める必要性を感じ、まちづくり大学院への入学を志しました。また、現場での実践に基づくまちづくり手法やエビデンスの蓄積を通して、理論と実践の両面から都市の課題に取り組む力を身につけたいと考えています。入学後は、思いのほか忙しい日々が続いていますが、初心と感謝の気持ちを忘れず、これからも意欲的に学びに励みたいと思います。

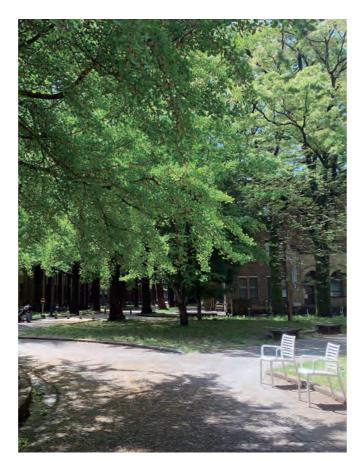
■西村美星―建設系プロジェクトマネジメント会社

私は、施設建設に関わる事業の計画推進支援と建設段階のマネジメントを行うCM/PM会社でまちづくりプロジェクトに携わっています。

プロジェクトの初期段階から参画し、事業の方向づけを行いうる 立場であるからこそ、都市政策の根底にある都市経営の考え方 やまちづくりに関する最新の専門知識と深い発想力を習得した いと考え、まちづくり大学院への入学を志望しました。

各分野の専門家である先生方の講義により体系的に専門知識をインプットできること、異業種の方々の多様な考えに触れながらケースメソッド方式の演習においてアウトプットできるカリキュラムに大きな魅力を感じています。

事業者ニーズだけでなく、地域が内包する潜在ニーズをも叶える持続可能なまちづくりを推進できるプロジェクトマネージャーへと成長したいです!





■磯田久美子―前世田谷区議会議員

文系学部を出て総合電機メーカーに就職、医療事業及びアジア市場の企画・営業部門を歩んできました。仕事一筋の人生が結婚・子育てで一変、後に続く世代のために社会の仕組み自体を変えたいと政治に転向。自治体議員になり、最も要望が多かったのはまちづくりに関することでした。 道路建設で立ち退きを迫られる家々、歩道が狭い通学路の安全確保、減便されるバス、駅前広場に緑とベンチがほしい…しかし給付金や無償化は皆喜ぶけれど、都市計画は人により賛否が分かれ正解がない。目指すべき未来のまちはどのような姿か、合意形成はどう図るべきか。それを学ぶためにまち大に来ました。歴史的建造物の保存・利活用がライフワークですが、日本の技術の復権を信じて、脱炭素社会について研究し政策提言につなげたいと考えています。待ってろ世田谷区。

■関英夫 —地方公務員

私は地方自治体に勤務しておりますが、早いもので30数年が経過しました。その間、いろいろな部署に配属になりましたが、その都度携わった業務を通じて、疑問に思うことも多々ありました。それらの疑問を解決するべくまちづくり大学院への入学を決意しました。

まちづくり大学院は社会人に特化したカリキュラムであることと、 まちづくりに関わる分野を横断的に学べることが最大の利点であると思います。また、年齢や職業もさまざまな学生が集まり、切磋琢磨することで学びの喜びや新たな見識を得られることは一生の財産にもなります。

「学ぶのに遅すぎることはない」という名言を信じつつ、せっかく のチャンスなので、これからもじっくりと学生生活を送ろうと思いま す。





■第18期生のプロフィール

人数:19名

年齢:27~59歳(平均38歳) 性別:男性10名、女性9名



まち大生のまちづくり

まち大では、既存の取り組みを批判的・客観的に捉える視点をもち、それを新たなまちづくりの展開に活かすための実践的な教育・研究を行っています。実際のまちづくりと連動した演習など、在学中の実践的な教育プログラムのほか、修了生もまち大在学中の経験と人的ネットワークを活かし、続々と新しい取り組みを行っています。ここでは、その一端をご紹介します。

■コミュニティデザイン/ランドスケープデザイン・スタジオ <公園を問う>





■本スタジオでの最終提出図面

2024年度のまちづくり演習第2(S2ターム)では、「コミュニティデ ザイン/ランドスケープデザイン・スタジオ <公園を問う>」と題し て、横浜市高島水際線公園とその周辺を対象に、公園の意義、 在り方、価値を問い直し、さらに新しい公園デザインの方法を考え ました。この課題に取り組んだ背景には、近年公園の活性化を目 指して、指定管理者制度、パークPFIなど民間活力の導入が功を 奏している一方、公園の本来の価値を体現しているのかを改めて 考えようという課題認識があります。この演習では、4~5名でチー ムを組んで中間発表までは公園全体のマスタープランを検討し、 最終課題ではそのマスタープランを前提として、各人が公園のデ ザインを検討しました。この演習では、図面などを自分の手で描い て得られる経験や感覚を重視しています。様々な専門性を有する 方々が入学するまちづくり大学院では、自身で図面を描く経験を 全学生が有しているわけではありません。一方で、全学生が、実 務を通じてまちづくりの仕事に携わっており、空間デザインに関係 しています。本スタジオを通じて、直接・間接に関わるこれからの実 務の現場で活かし得る空間デザインに関わる基本的な作法を学 びつつ、図面表現の仕方を個々に模索することで、充実した提案 となりました。

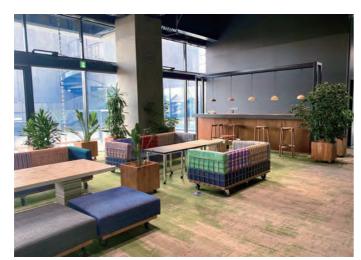
担当教員:小泉秀樹、三谷徹、熊谷玄、中島弘貴



■交流施設の運営手法に関する「研究」と施設における「実践」の融合

都市や地域において、さまざまな人の交流により新たな価値を生みだしていくことを志し、まちづくりに関わる業務や活動を経験してきたなかで、改めてまちづくりについて学ぶとともに、自身の志を実現するヒントを得たいと想い、東大まちづくり大学院(まち大)に入学した。

まち大の修士研究として、地域の価値創造に貢献する民間交流施設の運営手法に関する研究に取り組み、施設関係者やまち大の先生方、まち大生の方々から多大なるご協力を頂くことで、修士論文として知見をまとめることができた。



■「温故創新の森 NOVARE」の交流スペース(提供:筆者)

現在は、研究を通じて得た知見をそれぞれの交流施設、地域の発展に還元すること、また、そのために知見を実践につなげて検証し、更に深めていくことを目的として、清水建設のオープンイノベーション施設「温故創新の森 NOVARE」の企画推進に携わっている。NOVAREは、国内外の知を結集して新たなイノベーションを生み出す場を目指しており、そのなかで社外や地域との連携促進に取り組みながら、知見と実践の融合を模索している。

今後、博士課程に進学し、知見と実践を反復させながら更に研究を 深め、施設における交流を通じて新たな価値を生みだす手法やモデル を検討し、それらを共有、展開することで、それぞれの交流施設や地域 の新たな価値創造に貢献したい。



筆者:巣山栞

イブニングセミナー2024 「GX・DXは公正な移行を実現できるか? ─変革と公正を実現する都市再生に向けて─」

「変革と公正を実現する都市再生」に向けて、ハイブリッド・セミナーで議論!

2024年4月8日(月)、「GX・DXは公正な移行を実現できるか? 一変革と公正を実現する都市再生に向けて一」と題したイブニングセミナーを工学部14号館141講義室とオンラインのハイブリッドで開催し、約200人の皆さまにご参加頂きました。日本でもGX・DXの必要性が高まる中で、今後、都市再生としてどのようにこの課題に取り組むべきか、幅広い議論を行いました。

セミナーの前半では、谷山智彦(株式会社野村総合研究所デジタル都市インフラ研究室長)による「DX・GXに関わる昨今の動向」、諸富徹(京都大学大学院経済学研究科教授)による「公正な移行を実現する新しい経済社会」と題した基調講演を頂きました。後半には、東京大学の小泉秀樹教授、瀬田史彦准教授も加わり、中島弘貴特任講師の進行の下、変革と公正を実現するこれからの都市再生とそれらの学術としての体系化について議論しました。

なお、東大まちづくり大学院では2024年度に「再生型都市・建築論」という講義が 新設されています。



最先端の情報を持つ識者が登壇

東大まちづくり大学院・公開講座「都市・地域政策の構想と展開」

首長・経験者をお招きして全3回開催しました。

まちづくり大学院の講義「都市地域 政策の構想と展開」は、国の省庁や自 治体のトップおよびその経験者が、都 市・地域政策の着想や展開について語 るシリーズ講義です。2024年6~7月 に、増田寛也日本郵政(株)社長(元総 務大臣・岩手県知事)、桑原悠津南町長 (新潟県)、松丸修久守谷市長(茨城県) に、それぞれの日程でご登壇頂き、公 開講座をハイブリッド形式で(本学大 学院生は原則対面で、外部参加者はオ ンラインで)開催しました。





2025年のイブニングセミナー(公開講義)について

2025年のイブニングセミナーとして以下を開催予定です。

日 時:4/7(月)19:00~20:30 オンライン開催

開催形式:ハイブリッド形式(工学部14号館141講義室+Zoom)

国 旨:2050年までにカーボンニュートラルを実現するためには、2030年までの脱炭素化の取り組みが重要 だと言われています。国の環境政策は、2025年までに脱炭素先行地域を創出し、2030年までにはそれらが全国に広がる「脱炭素ドミノ」現象を実現することを目指しています。その中で、都市やまちの空間の形成・再生を担う都市計画・まちづくりは、脱炭素化の点的な取り組みを線そして面へと展開させると同時に、激化する水害、暑熱といった気候変動影響に社会を適応させていく挑戦において、中心的な役割を果たすと考えられます。本セミナーでは、公民学連携でこうした脱炭素まちづくりに取り組む道筋を模索します。

プログラム:講演「国のまちづくり GX の取り組み」

今 佐和子(国土交通省 都市局都市環境課 課長補佐)

講演「企業・自治体・市民の連携による鉄道沿線脱炭素まちづくり

松本 恵(東急不動産ホールディングス(株) グループサステナビリティ推進部)

ディスカッション「公民学連携による脱炭素まちづくりの道筋」

登壇予定者: 今佐和子(再掲)·松本恵 (再掲)·平田 仁子(Climate Integrate 代表理事)·小泉秀樹·村山顕人

※お申し込み方法など、詳しくは、まちづくり大学院ウェブサイトに掲載します。

2025年度 東大まちづくり大学院入試情報

2025年度の入学試験を右記のように行います。 募集要項の確認方法など詳しくは、東大まちづく り大学院のホームページをご覧ください。 募集要項・入学志望者案内Web公開日 4月上旬 説 明 会: 4月14日(月)19:00~ ※オンライン

出願時期: 5月16日(金)~22日(木)15:00

入学試験: 6月21日(土) 入 学 式:10月 1日(水)

http://www.due.t.u-tokyo.ac.jp/mps/



■発行:東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 都市持続再生学コース・同寄付講座 〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1 TEL. 03-5841-8362 ■office@mps.t.u-tokyo.ac.jp ■http://www.due.t.u-tokyo.ac.jp/mps/